



2024年度 園だより 8月

きたおおじ保育園

<楽しい保育園>

ある日の給食の前。「今日のごはんはなに〜?」と聞いてくる子どもたち。その日のメニューは豚丼です。「今日は豚丼だよ〜」「やった〜!」と喜ぶ仲間。そんなに豚丼が好きだったっけ?と思いながら、いただきますをして、仲間も元々豚丼が運ばれてきました。とつぜん仲間は泣き出します。「どうしたん?」聞いてみると仲間は言います。「ぼくの中にはチュルチュルが入ってない〜!」どうやらその仲間は豚丼をうどんと勘違いしていたようです。「“うどん”じゃないねん、“どん”やねん」「うどん?」「どん!どんぶり!」「どんぐり!?」「どんぶり!」「どんぐり?」「どんぐりちゃう!」♪どんぐりコロコロどんぶりこ〜♪「あっ!ほんまや〜!」「え?なにが?」「チュルチュル入ってへんねん!」「いや、だから〜(笑)」いつのまにか、とても楽しそうに豚丼を食べながら笑い合う仲間たちに癒されます。

<テレビから聞こえてきたのは>

あ〜今日も楽しかったなあ〜。そう言いながら仕事を終わられる。なんて贅沢な事でしょう。家に帰って、冷たいビールを飲みながら、昼間の子どもたちを思い出し、クククっと思出し笑いをしながらテレビを付けました。聞こえてきたのは子どもの水難事故のニュース。大人からの虐待によって尊い命を奪われた子どものニュース。なんで…。無意識に言葉がこぼれます。幸せの中に生まれ、幸せに向かい生きていくべき子ども達。私は激しく心が痛み、どうかこの小さな命が守られる事を約束された世界をと心から強く願うのです。

<どれだけ尊いものなのか>



「蝉が鳴くころに始まり蝉が鳴き止むと終わる」日本の平和運動はこういわれています。季節が移りゆくにつれて、そういった思いが薄れていくのではなく、大切に心の中に置いておきたいと思うのです。きっと来年の夏にも、私は同じ原稿を書くでしょう。そこで思い出すのではなく、覚えていたいと思うのです。保育を行う中で、子育てを行う中で、当たり前の子供が、当たり前のその笑顔が、当たり前のその命が、当たり前のすべてが、どれだけ尊いものなのかということ。ちゃんと覚えていたいと、そう思うのです。

<夏はこれから!>



8月に入ります。今年の夏も危険を感じるような暑さが続く中、子どもたちは大好きな水遊びに大喜びの毎日です。きたおおじ保育園では、安全面や衛生面を考慮して、みんなでプールに入るのではなく、タライにおもちゃを浮かべて遊んだり、シャワーを浴びたりして、水の心地よさを感じながら水遊びを楽しんでいます。水遊びを満喫した子どもたちは、お昼寝の時間になると、あっという間に夢の中。なかにはお昼寝の時間まで耐えられなくて眠ってしまう仲間も。いっぱい遊んで、いっぱい食べて、しっかり寝ている子どもたち。夏はこれから!これからの成長も楽しみですね。

